

|き|れ|い|に|暮|ら|す|

# 奈良県スタイルジャーナル

VOL. 10  
OCTOBER  
2019

～奈良らしい景観を目指して～





あすか野センターバスターミナルには、いつも花がいっぱい

# あすか野オアシスの会 会員それぞれができること 無理せず楽しんで まちの美化を継続。

## 美化ボランティアのきっかけは 住民の問題意識から

生駒市あすか野は、緑に囲まれた閑静な住宅街です。まちの玄関口、あすか野センターバスターミナルにはたくさんの花が植えられ、街角の緑地帯や公園も、色とりどりの花で飾られています。今では花があつて当たり前のようにあすか野の風景ですが、顧問の桑原英雄さんによると、四半世紀前には想像もつかなかったといいます。「この街ができて、もう40年以上。当初は、あちこち草だらけで、ごみや犬の糞が転がっていたりしてひどかったので、みんなで協力してごみ拾いをし、花を植えようということになりました」。

当時、自治会の環境部が中心になって、地域の環境美化を進めようとしていたそうです。「ところが、役員が毎年変わるの、軌道に乗せられない。



あすか野オアシスの会  
会長  
**森本 邦裕**さん(写真右)  
顧問  
**桑原 英雄**さん(写真左)

平成8年3月に、「あすか野オアシスの会」が始まって、もう23年になります。会員は現在7名で、お手伝いしてくれる方がほぼ同数。「いつも優しく笑顔で」をモットーに、「花のある街ごみのない街」を目指して活動しています。

『すまんが、ボランティアでやってと言われたのがきっかけでした』。定年退職したらボランティアをしたいと思っていたので、タイミングもピッタリ。「それなら、と、オアシスの会を立ち上げたのが平成8年の3月。そこからボランティアに勤しむ毎日で、もう23年やっています」。

花を植えることになったのは、「立ち上げメンバーの大石さん(故人)が、非常に花が好きなので、『一緒にやろう』となかば強引に誘われました。バスターミナルがあすか野の玄関口で、利用される方も多い。『よし、ここを花でいっぱいになりましたが、当時は木が茂って、放置自転車もいっぱい。市役所の協力を取り付けて、木を切ったり、自転車を処分してもらって、ようやく花を植えることができました。すると、行き交う人たちに、『綺麗になったねえ』と喜んでもらって、『いつも御苦労

さんです』とねぎらってくれる。それが励みになりました。

## 継続を引き出すのは 無理せず楽しむこと

会長の森本邦裕さんは、花に関わって6年。「バスターミナルと公園を中心に、時期に合わせた花を植えています。たとえば11月はジオラ、パンジーなど冬を越す花。6月はコキアやチューリップなど。9月初めは、マツバタンなど夏の花を植えています。暑い時期の管理は大変です」と説明も板に付いています。それもそのはず、園芸技術の普及と花と緑のまちづくりを啓発する生駒市の施設『花のまちづくりセンターふろーらむ』で6カ月にわたって開校された『花とみどりの楽校』で勉強をしました。「花は、植えるだけではダメ、管理が大変。水をやっ



て、こまめな草抜き、花色を見ての追肥。その回数をいかに増やすかでも悩まされます」。

23年間その「大麥」を継続できた秘訣を、桑原さんが教えてくれました。「お手伝いしてくれる方たちに、オアシスの会の活動に行って良かったと感じてもらえるように工夫すれば、続けてくれます。たとえば、予算内で花苗をたくさん買って、植え付けできずに残った花苗を、今日はAさん、次はBさん、その次はCさんにあげるといようにする。少しだけど、もらった人は喜んでくれるし、もらえなくても次があります」。

ます」。

森本さんからは「無理をさせない」心遣いが。「会のお知らせも、電話で済ますのではなしにチラシを直接持って行って、なるべく顔を合わせて会への参加・不参加を確認しています。病院に行くからちょっと無理とか、足が悪くて水やり当番がしんどい人、そういうのもかまいません。まあ無理したら続きませんから」。桑原さんも「いつといつはあなたが絶対やってください、とか、そういう言い方は避けています。穏やかに活動していくというのが、オアシスの会の趣旨ですから」。



街のあちこちで花と緑が目を楽しませてくれます

### 長年にわたる環境美化活動が 高く評価された表彰

自治会には花のボランティアグループが7団体あります。その中で「あすか野オアシスの会」が、令和元年度の環境省「地域環境美化功績者表彰」を受賞しました。「7団体みんなの力のおかげです。会の歴史が一番古いので、たまたま代表して賞をいただいただけです」と、森本さん。桑原さんが続けます。「環境美化は生活の基本じゃないですか。まずは自分の住む街をきれいにしたいという思いから地域の美化活動に努めてきました。長年にわたる活動が認められたのはうれしい限りです」。



環境省で受賞した表彰状は、あすか野自治会館に掲げられています

### 活動のその先にあった 地域コミュニティづくり

「季節の花を街中に植える、これが大事なことです。花だけでなく清掃も大事にできました」。花のある街ごみのない街」を目指す取組みのなかで、手ごたえを感じるのがごみ拾いだそうです。「何かのついでにごみ拾い、これを『with作戦』と言って呼びかけてます。買い物ついで、犬の散歩ついで、ちょっとごみを拾って、街をきれいにしましょう、と」。

実は、こういった一連の活動の先に見据えてきたことがあるそうで、「この活動によって地域を活性化しながら、さまざまなかたちでコミュニティづくりを進めてきました。バスターミナルも公園も、利用するのはあすか野の方ですから、声掛けもできるし挨拶もできる。そこから子どもたちの見守りや、防犯・防災の活動も立ち上げて、コミュニティをかたちづくることのできたのではないかと思います」。

「花のある街ごみのない街」というフレーズが、目指す街の姿であると同時に行動指針にもなる、分かりやすいコンセプトとして機能した、あすか野オアシスの会。街の環境美化活動を通してコミュニティづくりを進めた、ひとつのモデルといえそうです。

## 大淀町地域婦人団体連絡協議会 さざなみ会

### 暮らしと水辺の環境を

### ポジティブに

### 花と笑顔で彩りたい。



この日集まった、駒谷ヨシ子さん、中谷千津代さん、仲西愛子さん、森川幸子さん、西谷武子さん(左から)

#### 婦人会の中に、ゆるやかに組織した美化グループ

大淀町の中央公民館では、玄関まわりに四季折々の花が咲き、訪れる人々を和ませています。この花々の植え付けから手入れまでを、長らく続けて来たのが、大淀町地域婦人団体連絡協議会(婦人会)の「さざなみ会」。代表の仲西愛子さんによると、「婦人会の中にいくつもの部会があります。その中で美化活動をしているのがさざなみ会で、30人くらいが参加しています」とのこと。

#### 歴史ある活動の安定感と長い歴史ゆえの危機感

美化活動の始まりは、自然発生的でした。県の婦人会(奈良県地域婦人団体連絡協議会)の登録団体の多くが、



さざなみ会 代表  
仲西 愛子さん(写真左)

大淀町地域婦人団体連絡協議会 会長  
中谷 千津代さん(写真右)

花好きの女性たちが中心になって、公共施設など地域の美化につとめています。県や国レベルの活動も時にはありますが、地元でコツコツが基本です。日常生活の中での環境意識をたいせつにしながら、四季の花に囲まれています。

#### 花に負けない満開の笑顔でいつもポジティブに

おりしも、主要なメンバー5人で、秋の花へと植え替える作業の真っ最中。中央公民館2階の作業スペースに、ブルーシートを広げて土を混ぜる「舟」を置き、手慣れた様子で土を配合してプランターに移していきます。植え付けるのは、カラフルなケイトウの苗。「一般的に、苗を器から出した時、根が張ってるものは元気に育ちます。あまり張ってないのは育ちが悪いですね。そういう目利きも経験の中で身につけたそうで、特に専門的な勉強はしていないのだとか。

花の種類も、決めるのはメンバー。「時期的なことを考えつつ、皆さんに『気持ちが悪くなく』と感じてもらえるような花を選ぶようにしています。そのうえで日持ちがするもの。年





中央公民館の玄関には、いつも四季の花が

6回を基本的にというものの、天候やお花によって入れ替えの回数を増やしたりして、お花を絶やさないようにしています。長年の積み重ねで、長持ちする花もわかってきました。

こういった作業を、年間通して繰り返すわけですから、「お花づくりも体力が要ります。けっこう大変」とは言いながら、みなさん笑顔が満開なのは、「ここにいつもお花があれば、来られる人たちに元気をあげられるでしょう。きれいと言ってもらおうと励みにもなります」。

「一度、きれいに咲き揃ったチューリップが持ち去られたことがあります。『花を持ち帰らないで』と、注意とお願いはしましたが、『持つて帰りたいくなるくらいきれいだったんでしょ』と、ポジティブに切り替えるようにしています」。

### 地域から県レベルまで 清掃もたいせつな取組み

花の植え付けや手入れと並んで重要な活動が、地域や河川の清掃。これも35年以上の歴史があります。「吉野川を守る会」※の活動のひとつである吉野川支流清掃活動に参加するほか、「グリーンアップならキャンペーンで吉野山に行ったり、奈良公園にも清掃に行きました。鹿がポリ袋を食べてしまわないようにごみ拾いもするんです」。

そんな活動のなかでも、一番力を入れているのは、やはり地域の清掃です。

「国道筋や生活道路の掃除など、地域の美化に関わる事業があれば積極的に参加しています。以前はタバコの吸い殻が多かったのに、この頃は食べ物のポイ捨てごみが増えてますね。もちろんこれからも活動は続けます。美しい町として、暮らす人訪れる人に、少しでも喜んでいただきたいですから」。

※吉野川を守る会：吉野川流域の、県南部の自治体や各種団体、国・県の関係機関で構成。清流吉野川を次世代に引き継ぐためのさまざまな事業を展開。

### ネットワークと技術の蓄積で 町中を花いっぱい

花の植栽は、今のところ中央公民館に集中しています。「公民館はい



美化活動のもう一つの柱である清掃にも積極的に取り組んでいます

ろんな活動があつて、たくさんの方が出入りされる所なのでここを選びました。今後、花の植栽が町のあちこちに広まれば、町全体が活気づくんじやないですか」。その実現の為に考えていることがあります。「町で活動する団体には、種から花の苗を育て、学校に届けたり、花を育てる皆さんに分けたりする、そういったところがいくつかあるので、定期的に交流してます。今は植栽を増やす程度ですが、こういった関係が育てていけたら」と、構想はふくらみます。

園芸知識や技量の向上の面では、以前、農業試験場（現農業研究開発センター）に、見学に行ったこ

とはあるそうですが、「専門的な技術を学んだわけではありません。専門家の方が定期的にアドバイスしに来ていただけたら、私たちメンバーはもちろんうれしいです。それだけでなく、お花好きの新しいメンバーを勧誘することもできると思っています」。

ここまで取組みを続けてこられた秘訣は、「やっぱり気持ち」と、皆さん。お花好きばかり集まって輪ができて、家で一鉢でも植えようと思う、そんな楽しさが支えてきたと言います。そこに、専門家のサポートがつくようになれば、将来の活動のあり方が、一層充実することは間違いないでしょう。



みその地区の玄関口で、いっぱいの花がお出迎え

## 友遊クラブ・みその

私たちの暮らす奈良を  
みんなで汗をかいて  
きれいにしていきたい。

### みその地区の玄関口を 花いっぱい

王寺駅の北側を東西に走る市街地のメインストリート、県道156号を西に向かって進むと、突き当りに見えてくるのが、花の壁。近づくにつれ、花いっぱいプラントナーが、ひな壇状に5段重ねて並べてあるのが分かります。地区の玄関口を彩る、「友遊クラブ・みその」の作品。王寺町の花いっぱい運動にも参加しています。「王寺町からの補助を活用しながら、花苗と用土、プラントナーを準備し、花の植え替えをしています」。

夏の時期、花の種類は3種類。日持ちして色数もあり見映えの良い花苗を選んで植え付けます。植え付け作業はメンバーが集まって和気あいあいと、皆さん、慣れた手つきで作業を進め、見事な花の壁が完成します。



友遊クラブ・みその  
代表

### 渡邊 義博さん

地区の老人会を、平成22年に再編成して新しい団体として再出発し、メンバーは現在120名。年間50回ほどのイベントの中で、まちの美化に積極的に取り組み、平成30年度の環境省「地域環境美化功績者表彰」を受賞しました。



花の苗の植え付け作業も、楽しみなイベント

苗の植え付けが済むと、待っているのは日々のメンテナンスです。「これが大変。水やりは雨の日以外毎日行い、草取りや枯れた花がら摘みもこまめにしています。4人一組で当番を組んで、交代で回してるんです」。そして、花の手入れと併せて、CCC※活動として清掃も行っています。

※CCC：クリーン・クリーン・サークルの略。王寺町が進めているボランティア清掃活動。美しい町を創造するため、自発的に美化作業を行う団体を組織して取り組んでもらうもの。



植え付けの現場で、土づくりから本格的に行います



## 公園をはじめ地域の美化を 日ごろから

取材でお邪魔した日は、みその地区にある街区公園の大規模な除草作業の日でした。公園をのぞくと、大人のひざから、ひどい所は腰くらいまで草が伸びています。

朝8時過ぎには、メンバーが集まり始め、おもむろに草刈り機のエンジンが唸り始めたのは、8時半ごろ。メンバーが三々五々集まるにつれて、1台また1台と肩掛け式の草刈り機が数を増やし、どんどん刈り取っていきます。

この日の参加は約30名。「すぐそこに住んでるから、この音が聞こえるとじっとしてられへんのよ」と笑う女性は、最高齢の92歳です。作業のピーク時には草刈り機4台が稼働。機械の使えない箇所は、鎌を使って手作業で進めます。刈り取った草を詰めたごみ袋



公園で伸び放題の草をどんどん片づけ

が、公園の隅に次々と積み上げられていくにつれ、地面がみるみる透けるようになって、9時半過ぎには作業が完了しました。

代表の渡邊義博さんは、「友遊クラブとしての大規模な除草作業は、年2回5月と9月。雨の多い時期は草の成長も早いので、自治会の役員といっしょに追加で作業しています」と、こどもなげに話しますが、かなりの重労働。さらに公園だけでなく、まちの主要各所の清掃も実施しています。

清掃には「友遊クラブ・みそのだけでなく、ボランティア活動CCCの一環で、みその自治会と子ども会、地元企業も参加しています」。中でも地元企業が半月に1回、ボランティアで県道156号の清掃を実施し、これに地域から参加できる人も一緒に活動しています。「同じ想いさえあれば、企業とも、隣の地区の自治会・老人会とも仲良くしようと、絶えず顔を合わせて情報交換しています。この連携の輪を広げていきたい。自分の地区だけ一生懸命でも、活動は広がっていきませんか」。

## 活発な取組みの秘訣は 組織内の連携とねぎらい

まちの美化にこれだけ積極的で

いながら、友遊クラブとしてのテーマはというと、「元気で長生き。家にもこもりがちなお年寄りに、いかにして外に出てもらうかを考えています。少しでも活動的になって、元気に暮らしてもらおう。そのため年間50回くらい行事をやっています」。毎月の定例会では、季節ごとの食事会、バザー、そして、花の植え付けなど。並行して、これも毎月のように開かれる『サロン』では、音楽や舞踊、手品、大正琴、腹話術などのイベントを実施しています。

「組織をうまく機能させるために大切なのは、自分たちが率先して動くこと。そのうえでお願いしないと、誰もついてきてくれません。同時に、みんなで情報を共有して、横の連絡・連携を良くしています。誰かがお山の大将になったり、ひとりが頑張るのではなく、『みんなでやろうよ』と」。

働いてくれた人をねぎらうことも大切です。「なにか楽しみが無いと、進んで協力はしてくれません。ひとくちに『まちをきれいにしましょう』と言うけれど、各地域の自治会などで、会長さんや役員さんたちはみんなの協力を引き出すためにいろんなイベントを工夫しています」。

## 組織や立場を超えて みんなで奈良県をきれいに!

最近の新たな動きとして、王寺町社会福祉協議会(社協)との連携があります。自治会主催の夏の地藏盆にも、取材日の草刈りにもボランティアでの参加がありました。「社協が老人会を看ているのだから(実際、社協の人は毎週末来てくださって、老人会のことを一番ご存じですから)、いろいろなコラボレーション活動ができれば良いと思います。協力できる人であれば、組織の枠組みとか立場を抜きにして、テーマを決めて取り組めば良い。みんなで一緒に汗をかいて、奈良県をきれいにしていきたいでしょう!」



この日は総勢30名で大規模な除草作業を実施

# 彩りの庭だより ～秋・冬の彩り～

奈良県内の彩りの名所を紹介します

## 大和三山エリア

### 香久山(檀原市)



大和三山が眺望できる藤原宮大極殿跡  
(奈良県景観資産)

多くの歌人に愛された畝傍山、耳成山、香久山の  
大和三山に囲まれた藤原宮跡。秋には、大和三山を背景にコスモスが一面に咲きほこります。万葉集に詠まれた風景とともに、彩りを楽しむことが出来ます。



## コスモス

見頃:10月～11月中旬

## 東吉野エリア

### 高見山山頂(東吉野村)



高見山地が眺望できる高見山山頂展望台  
(奈良県景観資産)

秀麗な山容から近畿の  
マッターホルンとも呼ばれ、山頂からの贅沢な眺望は通年楽しむことができます。冬の厳しく冷え込んだ晴れた朝にしか見ることができない霧氷の風景は感動的です。※冬場は雪山装備が必要です。



## 樹氷

見頃:1月～2月

## 令和元年度「不法投棄ゼロ作戦」推進キャンペーン

11月11日(月)から17日(日)は、「不法投棄ゼロ作戦」強化週間です。

# 不法投棄をしない、させない、許さない!!

強化週間中は各市町村にて集中的な啓発活動及び特別パトロールを行います。

不法投棄ホットライン  
(奈良県景観・環境総合センター)

ごちらぎゆうぎゆう さん ぱ い

# 0120-999-381

お問い合わせ先

奈良県不法投棄ゼロ作戦推進キャンペーン実行委員会 事務局 (奈良県環境政策課内)  
TEL.0742-27-8663



奈良県エコキャラクター  
「な〜らちゃん」

きれいに暮らす

奈良県スタイルジャーナル 第10号

2019年10月発行

発行 / 奈良県くらし創造部 景観・環境局 環境政策課

〒630-8501 奈良市登大路町 30

TEL.0742-27-8663 FAX.0742-22-1668

